VELOREX　Press release　　2026 年 11 月 7 日

2026 SUPER GT Rond 3, MOTEGI GT 250km RACE

「厳しい予選 20 番手から大幅ジャンプアップした決勝。チームが一丸となって勝ち取った 10 位、ポイント獲得！」



●11 月 7 日（予選/決勝）

スーパーGT第 3 戦「MOTEGI GT 250 Km RACE」は、当初、マレーシアのセパン・サーキットでの開催が予定されていましたが、延期となり、最終戦もてぎ大会での2レース開催での実施となりました。

金曜日に設けられた公式練習では、大きな問題はなかったものの、26 周をこなして 1 分

48秒034で14番手。チームは土曜日の予選、決勝に向けてデータを解析し、更なるセットアップを進めていきました。

第3戦は、実質的な第7戦と位置付けられ、サクセスウェイトは半分、1ポイントに対して1kgでのレースとなります。6号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは26kgのサクセスウェイトを搭載してのレースです。

また本大会は250kmレースとなり、タイヤ交換の義務はありません。予選はGT300クラスが20分間、GT500クラスが15分間とされ、従来のようにA、Bグループ分けはされず、ドライバー1名が予選を戦います。

午前9時から開始となった公式予選では、ニクラス・クルッテン選手がステアリングを握ります。気温15℃、路面温度18℃、湿度35%と雲ひとつない快晴の中、やや路面温度の低さが気になるセッションとなりました。

ニクラス・クルッテン選手はタイヤのラバーが乗ってコースコンディションが良くなるセッション終盤までピットで待機し、残り10分でコースイン。しっかりとタイヤを温め、かつトラフィックのタイミングを見て、5周目に1分47秒028、そして6周目のアタックで1分46秒956をマーク。前日の公式練習でのタイムを大幅に更新しましたが、予選結果は20番手でした。

午後の決勝レース、スタート直前のコンディションは、気温19℃、路面温度22℃、湿度34%となり、2周のフォーメーションラップの後にスタートが切られました。

6号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIのスターティングドライバーは、片山義章選手。グリッド後方からのスタートだけに、混乱を予想して慎重なポジション取りをしていたことが功を奏したか、第3コーナーでのアクシデントをうまくかわし、1周目に13位へと大きくジャンプアップしてコントロールラインを通過。そのまま勢いよく上位を目指しましたが、1周目のアクシデントによってコース上にオイルが流れ、その処理のためにFCYからセーフティーカーが導入されることとなりました。

8周目にレースが再開されると、片山義章選手はアグレッシブなバトルを続け、17周目には11番手までポジションを上げて、ミニマムスティントでニクラス・クルッテン選手に交代。16番手でレースに復帰することとなりました。

代わってステアリングを握ったニクラス・クルッテン選手は一旦は17番手にドロップしたものの、コンスタントなペースで周回を重ね、21周目に16位、24周目に15位、25周目に



14 位と着実にポジションを上げ、33周目に13位、35周目に12位、そして 37 周目に11番手までポジションを上げると、最終ラップまで後方のマシンを制しながら、前を行くマシンを追い続ける見ごたえのあるバトルを続けてくれました。そのまま暫定11位チェッカーを受けました。

そして正式結果が発表された段階で，上位陣の 1 台が失格となったことで、6号車は10入賞。VELOREX は貴重な6ポイントを加算しました。



■片山義章選手のコメント

「今回のレースは 250kmということもあって、チームとしては初のタイヤ無交換作戦で行こうと決めていました。公式練習の感触から、予選では 10 番手くらいだと予想していたのですが、タイヤの温まりが悪かったのか、かなり強いオーバーステアで 20 番手に沈んでしまい、厳しいレースになりました。幸い、僕のスティントでアクシデントの混乱もあって、トータル7台をパスすることができたので、あえて早めのタイミングでピットに入り、攻めのレースを展開することにしました。ただ GT300車両の給油ペースが早く、そこで2台に抜かれてしまったことで、ニクラス選手が30周近く遅いマシンに引っかかって自分のペースで走れなかったのが悔しいですね。それがなければトップ 10 でフィニッシュできたはずです。でも、明日はまた別のレースですから、予選で上位を狙えるよう、データをしっかり解析して、シーズン最後のレースで表彰台を狙います。応援ありがとうございました」





■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「昨日の公式練習では、マシンのバランスはまずまずだと感じていたのですが、今朝の予選では、路面温度とチョイスしたタイヤのマッチングの問題か、とてもオーバーステアが強く、厳しい順位となってしまいました。それでもウォームアップまでにチームが良い仕事をしてくれたことで、セットアップも良い方向へと仕上がり、決勝に向けてかなり手応えを感じていました。とにかくポイントは獲得しようとチーム全員で意気込み、決勝レースを迎えました。決勝レースでは、スタート直後のアクシデントを片山義章選手がうまく交わして大きくポジションをアップしてくれたので、自分のスティントではとにかくポイント圏内でフィニッシュするべくプッシュ、プッシュのレースでした。なかなか前の遅いマシンを抜けなかったのは明日への課題でもありますが、それ以外は思い切ったレースができたと思います。明日の予選、決勝レースは、最終戦でもありますし、今日のリベンジのつもりで頑張りたいと思います」

UNI-ROBO BLUEGRASS ORC ニチアス TONE zahlen DOBOT SEIHA CLIMAX RANDIRK HALTY



■小倉啓悟チーム監督のコメント

「今日の予選はダメでしたね。タイヤの内圧なのか、セットアップが原因なのかは後ほど確認しますが、全然タイヤが温まらず、リヤのグリップが出ないままだったので、予定より多く走ってタイムは出しましたが、20 番手と沈んでしまいました。決勝までにできる限りのことはやって、今回は片山義章選手の走りに委ねました。スタート直後の混乱で多少の接触はありましたが、うまく避けてジャンプアップしてくれましたし、タイヤ無交換作戦で行くことがわかっていたので、できるだけタイヤに優しいドライビングを心掛けて良いコンディションで戻ってきてくれました。ニクラス・クルッテン選手に交代した際、同じストラテジーのチームを 2 台抜いたのですが、アウトラップでなぜか抜かれてしまい、そのマシンを抜き返すのにすごく周回を重ねることになってしまいました。GT300車両の給油時間が短いのも、我々にとっては厳しいものですが、自分たちのマシンとドライバーの強みとして、タイヤの使い方が上手く、良い状態で長く走れることで、今回のレースはタイヤ無交換作戦に思い切ってトライしたのは良かったと思います。今日の10位は、チーム全員で勝ち取った順位ですし、内容的には、チームとして嬉しい結果だと思います。。明日の最終戦は、まず予選でもっと上位に並ぶこと。それ以外にも課題はありますが、予選、決勝とうまくまとめさえすれば、我々にはポテンシャルがあることはわかっていますので、ミスなく全力を出し切って最終戦を終えたいと思います」

■本リリースに関するお問い合わせ：チームルマン広報部：info@teamlemans@co.jp

